

平成13年度

平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 2001



目次

企画展	4
パウル・ヴンダーリッヒ展—ヴンダーリッヒは天使とは戦わない—	
湘南の美術・光—美術館建設運動から開館10周年まで—展	
近世ヨーロッパ絵画の軌跡展 近代の二つの表現—アカデミーとバルビゾン派—	
日本画の巨匠 安田靉彦—歴史画の魅力展—	
常設展示	12
第1回常設展示	
第2回常設展示	
第3回常設展示	
特集展示「幻視—その直感と観察」	
教育普及	19
ワークショップクラブ 湘南美術散歩	
出前ワークショップ	
資料整理	
レクチャー 学芸員による美術レクチャー	
陶芸教室 初心者陶芸教室／夏休み子供陶芸教室	
共催事業・館外事業	23
美術館共催事業	
館藏品作品の広報活動	
研究活動	
保存・修復	26
平成13年度保存・修復作品	
収蔵庫虫害調査	
収蔵・貸出	27
平成13年度収蔵作品	
平成13年度貸出作品	
統計	31
平成13年度 観覧者数	
平成13年度 施設利用状況	
平成13年度 学校団体観覧利用者数	
平成13年度 市民アートギャラリー利用状況	
平成13年度までの市民アートギャラリー入場者の推移	
沿革	36
組織・運営	37
美術館協議会/組織/職員名簿	

パウル・ヴンダーリッヒ—ヴンダーリッヒは天使とは戦わない—展

会 期 平成13年4月21日（土）～6月3日（日） 38日間
 主 催 平塚市美術館
 協 力 株式会社サン・ライフ、ART BY XEROX
 後 援 神奈川新聞社、産経新聞社
 観 覧 料 一般=600円、高大生=400円、中学生以下無料
 展覧会進行 森田英之（当館学芸担当長）
 企 画 尾崎真人（当館学芸員）
 観覧者数 3,890人

1927年ベルリン郊外で生まれた、パウル・ヴンダーリッヒのリトグラフを中心にした202点で構成した。

パウル・ヴンダーリッヒの196点の版画の展覧会は、国内初めてであった。初期銅板画や木版画から、近年の作品にいたるまでのヴンダーリッヒの仕事の展開が見える展覧会となった。その中でも本展覧会では、初期の銅板画や木版画が出品され、後のパウル・ヴンダーリッヒの版画芸術への展開を知るうえで貴重な物である。

パウル・ヴンダーリッヒのリトグラフの特色である、写真や歴史上の名画を、メタモルフォーゼ（変容）した作品は、イメージの重なり合いや差異をともなった幻想性と、存在の有様をエロス（愛）とタナトス（死）の問題として哲学的に問いかけてくれた。美術が本来持っている、変幻自在なイメージの面白さや豊かさを観覧者に体感していただく展覧会となりえた。



展覧会チラシ(表)

パウル・ヴンダーリッヒ展 —ヴンダーリッヒは天使とは戦わない

1927年ベルリン郊外で生まれた、パウル・ヴンダーリッヒは、ドイツを代表する現代美術家のひとりです。パウル・ヴンダーリッヒの版画は、初期銅板画や木版画から、近年の作品にいたるまでのヴンダーリッヒの仕事の展開が見える展覧会となった。その中でも本展覧会では、初期の銅板画や木版画が出品され、後のパウル・ヴンダーリッヒの版画芸術への展開を知るうえで貴重な物である。

その中でも本展覧会では、初期の銅板画や木版画が出品され、後のパウル・ヴンダーリッヒの版画芸術への展開を知るうえで貴重な物である。その中でも本展覧会では、初期の銅板画や木版画が出品され、後のパウル・ヴンダーリッヒの版画芸術への展開を知るうえで貴重な物である。



1927年 1928年



1928年 1928年



1928年 1928年



1928年 1928年



1928年 1928年

【観覧料】 一般 600円、高大生 400円、中学生以下 無料
 【観覧時間】 10時～18時、休日は10時～17時、入館は閉館前30分まで
 【休館日】 4月21日（土）、5月1日（日）、5月2日（月）、5月3日（火）、5月4日（水）、5月5日（木）、5月6日（金）、5月7日（土）、5月8日（日）、5月9日（月）、5月10日（火）、5月11日（水）、5月12日（木）、5月13日（金）、5月14日（土）、5月15日（日）、5月16日（月）、5月17日（火）、5月18日（水）、5月19日（木）、5月20日（金）、5月21日（土）、5月22日（日）、5月23日（月）、5月24日（火）、5月25日（水）、5月26日（木）、5月27日（金）、5月28日（土）、5月29日（日）、5月30日（月）、5月31日（火）、6月1日（水）、6月2日（木）、6月3日（金）、6月4日（土）、6月5日（日）、6月6日（月）、6月7日（火）、6月8日（水）、6月9日（木）、6月10日（金）、6月11日（土）、6月12日（日）、6月13日（月）、6月14日（火）、6月15日（水）、6月16日（木）、6月17日（金）、6月18日（土）、6月19日（日）、6月20日（月）、6月21日（火）、6月22日（水）、6月23日（木）、6月24日（金）、6月25日（土）、6月26日（日）、6月27日（月）、6月28日（火）、6月29日（水）、6月30日（木）、6月31日（金）、7月1日（土）、7月2日（日）、7月3日（月）、7月4日（火）、7月5日（水）、7月6日（木）、7月7日（金）、7月8日（土）、7月9日（日）、7月10日（月）、7月11日（火）、7月12日（水）、7月13日（木）、7月14日（金）、7月15日（土）、7月16日（日）、7月17日（月）、7月18日（火）、7月19日（水）、7月20日（木）、7月21日（金）、7月22日（土）、7月23日（日）、7月24日（月）、7月25日（火）、7月26日（水）、7月27日（木）、7月28日（金）、7月29日（土）、7月30日（日）、7月31日（月）、8月1日（火）、8月2日（水）、8月3日（木）、8月4日（金）、8月5日（土）、8月6日（日）、8月7日（月）、8月8日（火）、8月9日（水）、8月10日（木）、8月11日（金）、8月12日（土）、8月13日（日）、8月14日（月）、8月15日（火）、8月16日（水）、8月17日（木）、8月18日（金）、8月19日（土）、8月20日（日）、8月21日（月）、8月22日（火）、8月23日（水）、8月24日（木）、8月25日（金）、8月26日（土）、8月27日（日）、8月28日（月）、8月29日（火）、8月30日（水）、8月31日（木）、9月1日（金）、9月2日（土）、9月3日（日）、9月4日（月）、9月5日（火）、9月6日（水）、9月7日（木）、9月8日（金）、9月9日（土）、9月10日（日）、9月11日（月）、9月12日（火）、9月13日（水）、9月14日（木）、9月15日（金）、9月16日（土）、9月17日（日）、9月18日（月）、9月19日（火）、9月20日（水）、9月21日（木）、9月22日（金）、9月23日（土）、9月24日（日）、9月25日（月）、9月26日（火）、9月27日（水）、9月28日（木）、9月29日（金）、9月30日（土）、10月1日（日）、10月2日（月）、10月3日（火）、10月4日（水）、10月5日（木）、10月6日（金）、10月7日（土）、10月8日（日）、10月9日（月）、10月10日（火）、10月11日（水）、10月12日（木）、10月13日（金）、10月14日（土）、10月15日（日）、10月16日（月）、10月17日（火）、10月18日（水）、10月19日（木）、10月20日（金）、10月21日（土）、10月22日（日）、10月23日（月）、10月24日（火）、10月25日（水）、10月26日（木）、10月27日（金）、10月28日（土）、10月29日（日）、10月30日（月）、10月31日（火）、11月1日（水）、11月2日（木）、11月3日（金）、11月4日（土）、11月5日（日）、11月6日（月）、11月7日（火）、11月8日（水）、11月9日（木）、11月10日（金）、11月11日（土）、11月12日（日）、11月13日（月）、11月14日（火）、11月15日（水）、11月16日（木）、11月17日（金）、11月18日（土）、11月19日（日）、11月20日（月）、11月21日（火）、11月22日（水）、11月23日（木）、11月24日（金）、11月25日（土）、11月26日（日）、11月27日（月）、11月28日（火）、11月29日（水）、11月30日（木）、12月1日（金）、12月2日（土）、12月3日（日）、12月4日（月）、12月5日（火）、12月6日（水）、12月7日（木）、12月8日（金）、12月9日（土）、12月10日（日）、12月11日（月）、12月12日（火）、12月13日（水）、12月14日（木）、12月15日（金）、12月16日（土）、12月17日（日）、12月18日（月）、12月19日（火）、12月20日（水）、12月21日（木）、12月22日（金）、12月23日（土）、12月24日（日）、12月25日（月）、12月26日（火）、12月27日（水）、12月28日（木）、12月29日（金）、12月30日（土）、12月31日（日）

展覧会チラシ(裏)

展覧会図録

「パウル・ヴンダーリッヒーパウル・ヴンダーリッヒは天使とは戦わない」菊版（24.0×25.0cm）、116頁

挨拶 福田徳樹（平塚美術館館長）
挨拶 パウル・ヴンダーリッヒ
テキスト 尾崎真人「ヴンダーリッヒに非ぬ作品が創るヴンダーリッヒ」

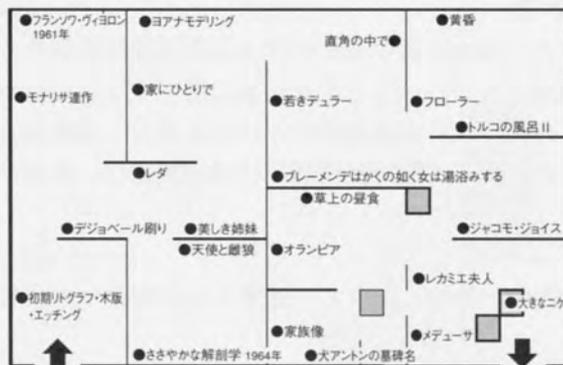
図版 168件（203点）
資料 年譜・文献 尾崎真人編
出品一覧
図録編集 尾崎真人
独語翻訳 森田則子
製作 印象社
発行 平塚市美術館



図録表紙

展示会場

会場構成 尾崎真人



■ は立体作品 展示会場図 (展示室 I)



展示会場風景

関連事業

講演会（参加人数約110名）

「石に咲くエロス・ヴンダーリッヒ展の手助けとして」5月19日（土）

講師 中林忠良（東京芸術大学美術学部教授/版画家）

ギャラリー・トーク（参加人数約280名）7回

4月21日（土）、4月29日（祝）、5月5日（祝）、5月13日（日）

5月19日（土）、5月27日（日）、6月3日（日）

担当 尾崎真人

ハンズ・オン講座（参加人数約15名）5回

観覧者が自ら作品にアプローチしていく体験（創作動機、作者のメッセージ、作品テーマの読み込み、技法・材質の研究を、受講者各人の疑問や感動から導入）を、学芸員がサポートする鑑賞プログラム。

担当 尾崎真人

関連記事・展覧会紹介

〔新聞〕

無記名 朝日新聞 5月1日

柳生不二雄『文化・神奈川の美術展評』神奈川新聞6月7日

湘南の美術・光—美術館建設運動から開館10周年まで—展

会 期 平成13年7月26日（木）～平成13年9月30日（日） 58日間
 主 催 平塚市美術館
 後 援 神奈川新聞社
 観 覧 料 一般=300円、高大学=200円、中学生以下無料
 企 画 森田英之（当館学芸担当長）、郡司亜也子（当館学芸員）
 観覧者数 5,422人

2001年3月で平塚市美術館が開館10周年をむかえたことを記念し、美術館のなりたちと活動のあゆみをふりかえり、所蔵品に文字資料・写真資料・建設模型・ポスターを加えて紹介した展覧会。展示室2室を利用し、第1部：平塚市美術館前史—美術館建設運動から開館まで—、第2部：平塚市美術館10年の活動、第3部：コレクション形成のあゆみの3部構成とし、作品そのものの鑑賞に加えて開館経緯資料と所蔵品情報の公開に重点をおいた。

第1部：平塚市美術館前史—美術館建設運動から開館まで—

第2次世界大戦によって焦土と化した平塚。戦後なされた地元平塚の美術家による文化復興活動とそれにつづく1970年代の美術館建設運動は、一作家一点寄贈運動をくりひろげて行政を刺激した。そうして行政は、すでに進んでいた平塚市文化センター構想の一環として、1980年代に美術館建設への具体的な一歩をふみだすにいたる。美術館建設にいたるまでの歴史的な経緯を、この時期に寄贈された作品、建設陳情書、建設計画関係資料、建築図面・模型、建設途中の写真資料などによってたどってゆく。

第2部：平塚市美術館10年の活動

1991年3月にオープンした平塚市美術館の活動のあゆみを、開催した全ての展覧会の広報物や教育普及活動によって収集された画材などの資料によってたどった。

第3部：コレクション形成のあゆみ

当館の所蔵品は平成13年4月現在、絵画、彫刻、工芸、書、写真の領域にまたがり、およそ1600件3000点におよぶ。第3部では、これらのコレクションの出発点となった1970年代の一作家一点寄贈運動につづく、開館準備に伴う作品収集、開館後の作品収集のあゆみを、収集された作品とともに時代をおって紹介。ライトコートではPCを2台設置し来館者が自由に平塚市美術館の所蔵品について検索閲覧できるコーナーを設置した。



開館10周年記念チラシ(表)



開館10周年記念チラシ(裏)

資料集 平塚市美術館開館10周年記念記録集—美術館建設運動から開館10周年まで—

A4版変形 (29.8×22.5cm)、112頁

挨拶 吉野稜威雄 (平塚市市長)

挨拶 福田徳樹 (平塚市美術館長)

論文 森田英之「第1部・平塚市美術館前史—美術館建設運動から開館まで—」

平塚市美術館編「第2部・平塚市美術館10年の活動」

郡司亜也子「第3部・コレクション形成のあゆみ」

資料 「平塚市美術館所蔵作品総目録」

「湘南の美術・光展出品所蔵作品目録」

編集 森田英之、郡司亜也子

制作 株式会社 求龍堂

発行 平塚市美術館



展示会場風景



図録表紙

展示会場

会場構成 森田英之、端山聡子、郡司亜也子



展示会場図

関連事業

展示会レクチャー (会場：ミュージアムホール、参加者：計約50名)

「平塚市美術館のコレクション 洋画編」8月5日 (日) 13:30～15:00 福田徳樹

「平塚市美術館のなりたち」8月26日 (日) 13:30～15:00 森田英之

「平塚市美術館のコレクション 日本画編」9月9日 (日) 13:30～15:00 福田徳樹

ワークショップ「湘南美術散歩」

教育普及の項 (P21～P22) を参照。

ビデオ放映「みんなの美術館」(会場：ミュージアムホール)

日時：会期中

関連記事・展示会紹介

〔新聞〕

柳生不二雄「文化—神奈川の美術展評」 神奈川新聞 2001年8月30日

森田英之「『湘南の美術・光』展に寄せて」 神奈川新聞 2001年9月9日

近世ヨーロッパ絵画の軌跡—近代の二つの表現—アカデミーとバルビゾン派—展

会 期 平成13年10月20日（木）～平成13年12月2日（日） 38日間
主 催 平塚市美術館
後 援 神奈川新聞社
協 力 飯田画廊
観 覧 料 一般＝600円、高大学＝400円、中学生以下無料
企 画 小池光理（当館学芸員）
企画協力 株式会社 エーティー
観覧者数 5,782人

16世紀から17世紀にかけてヨーロッパは、大きな社会変革期を迎えました。政治上では、フランスのルイ14世時代に、神ではなく国王を権威の頂点とした中央集権政治が確立されます。宗教上ではカソリックに対して新教、プロテスタントが登場し1648年に独立した新教国オランダの中心は、神と国王の権威から解放された市民階級となりました。時代の価値観は芸術表現に示されます。異なる社会システムの成立は「描くに値する」絵画の主題にも、それぞれの影響を与えました。

フランスでは、1663年発足の王立絵画彫刻アカデミーが、イタリア美術を権威とした芸術の正統派の規範を定め、理想美を追求する「古典主義」絵画を確立します。絵画主題の頂点は、聖書や古代ローマ、ギリシャ神話等の知識を駆使して構成された「歴史画」であり、眼前の事物の単なる描写とされた「風景画」のランクは低いものでした。これに対してオランダでは、市民階級が自分たちの日常の事物に絵画の主題を見出し、また自然を客観的に観察する近代科学の視点がうまれました。フランスでは主に人物ドラマの背景として用いられていた自然が、ここで「風景画」として確立します。後のバルビゾン派に影響を与えることとなります。18世紀に入ると、フランスでは革命に至る王権弱体化の過程で「理想」ではなく「現実」を把握しようとする姿勢があらわれます。この思想は、バルビゾン派の先駆者にも影響を与えていきます。

そして19世紀初頭から半ば、市民革命と産業革命を経た近代フランス社会は、新しい時代に見合った新しい美術表現を求める画家たちを輩出しました。バルビゾン派の画家たちは、主題のランクにおいては、伝統的なフランス・アカデミーの規範では下位とされていた森や川辺といった自然そのもの、農民や労働者、家畜を描きました。

市民社会の到来にともない、主題のヒエラルキーを崩壊させ、現実を感覚のままに捉えようとするバルビゾン派の画家たちの活動は次世代の印象派の登場へ道を切り開くこととなります。

本展では、16世紀から19世紀にかけての時代を「1 近代市民社会の成立：オランダの絵画」、「2 絶対王政とアカデミズムの成立：フランス・アカデミーとロココの絵画」、「3 理想美を求めて：18～19世紀アカデミーの画家たち」、「4 自然を見つめて：フランス・バルビゾン派の画家たち」の4つのセクションにわけ、印象派に道を開き、20世紀美術の礎をつくるまでのヨーロッパ美術の流れを展覧します。



開館10周年記念チラシ(表)



開館10周年記念チラシ(裏)

図録 『近世ヨーロッパ絵画の軌跡—近代の二つの表現—アカデミーとバルビゾン派—展—』

A4版変形 (29.8×22.5cm)、126頁

挨拶 福田徳樹 (平塚市美術館長)

論文 島田紀夫 (実践女子大学教授/山梨県立美術館館長)

「近世ヨーロッパ絵画の軌跡-対立する制度と融合する表現-」

小池光理 「パリ第二帝政下のアカデミーとバルビゾン派—近代化過程の芸術運動その側面—」

図版 91点

資料 各章解説 小池光理

作家解説 小池光理

関連年譜 小池光理編

出品一覧

図録編集 小池光理

制作 光村印刷 株式会社

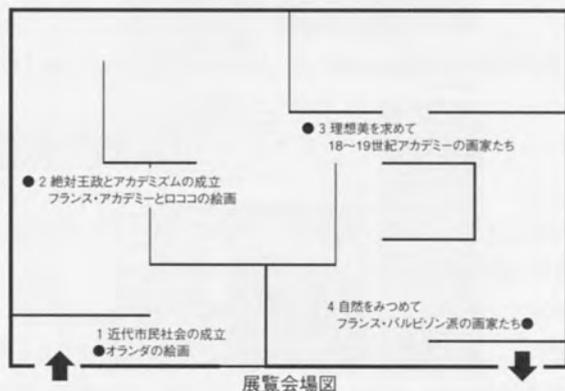
発行 平塚美術館



図録表紙

展覧会場

会場構成 小池光理



展覧会場図

開館10周年記念「日本画の巨匠—安田靫彦 歴史画の魅力」展

会 期 平成14年2月9日（土）～3月24日（日）38日間

（前期：3月3日まで、後期3月5日から）

主 催 平塚市美術館・日本経済新聞社

後 援 財団法人日本美術院・テレビ神奈川

観 覧 料 一般＝800円、高大生＝600円、中学生以下無料

企 画 勝山 滋（当館学芸員）

観覧者数 18,083人

開館10周年を記念し、湘南ゆかりの日本画家であり、主要収蔵作家でもある巨匠・安田靫彦の展覧会を開催する。

安田靫彦については過去多くの展覧会で作品が紹介され、画家の多彩な画業が注目されてきたが、その歴史画家としての側面に焦点をあてた展覧会がまれであった。そこで本展では、ゆかりの画家である靫彦が特に生涯描き抜いた歴史画のうち、85点を通じて多彩なモチーフとその変遷をさぐり、現在ほとんど描かれることのなくなった「歴史画」を再発見していくこととした。

会場はほぼ制作年順に3部構成とし、第一部研鑽期（明治大正期）、第2部完成期（昭和戦前期）、第3部円熟期（戦後）に分けた。靫彦展としては初公開となる『かちかち山』（株式会社ヤマタネ）、『羅浮仙女』（松岡美術館）『道元禅師』『靈隠寺夜月』のほか、新古典主義の幕開けを告げる代表作『日食』（平塚市美術館）、および初の本格展示となる同下図（東京芸術大学大学美術館）を2点同時公開し、大正期院展の出品作として『御産の禱』『項羽』『五合庵の春』（東京国立博物館）3点、戦前の代表作『山本元帥像』（東京芸術大学）、『王昭君』（財団法人足立美術館）、戦後の『伏見茶亭』（東京国立近代美術館）『牟弥呼』『飛鳥の春の額田王』（滋賀県立近代美術館）『草薙の剣』（川崎市市民ミュージアム）などを展示した。なお本展は会場の都合により、従来常設展示で使用している展示室2を会場とし、会期中一部展示替えを含め、のべ85点の展示となった。



展覧会チラシ(表)



展覧会チラシ(裏)

展覧会図録 『日本の巨匠 安田鞞彦－歴史画の魅力展』A4版変形(29.8×22.5cm)、112頁

- 挨拶 福田徳樹(平塚市美術館館長)
鶴田卓彦(日本経済新聞社代表取締役社長)
- 論文 福田徳樹「安田鞞彦－交錯する視線・歴史画家の成立」
勝山滋「画題の変遷－安田鞞彦の歴史画をめぐって」
- 図版 85点
- 資料 「鞞彦昔語り－初公開インタビューから」
主要作品解説 勝山滋
関連年表 勝山滋編

出品一覧

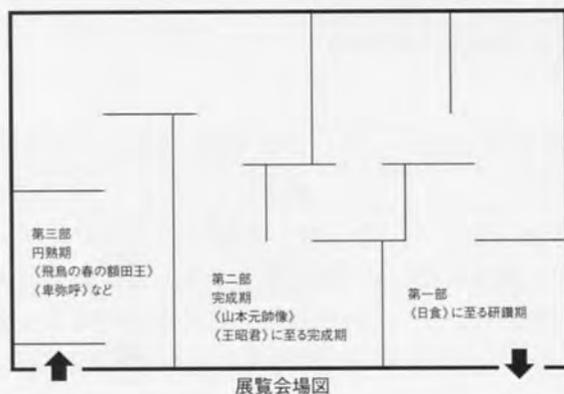
- 発行 平塚市美術館
制作 大塚巧藝社



図録表紙

展覧会場

会場構成 勝山滋



展覧会場図



会場風景

関連事業

座談会

フォーラム「座談会－鞞彦の生涯と画風」2月16日(土)

鎌倉秀雄(日本画家、日本美術院理事)、安田建一(鞞彦令息)、福田徳樹、勝山滋

展示解説

「『日食』のできるまで」勝山滋 2月9日(土)

「山本五十六元帥像と王昭君」勝山滋 2月23日(土)

「戦後の鞞彦－新出インタビューテープから」勝山滋 3月16日(土)

春のお茶会 3月3日 亭主：平塚茶道協会

関連ビデオ上映「いにしえびとに想いをはせて」(佐野美術館制作)、「大磯の安田鞞彦」(平塚市美術館制作)

関連記事・展覧会紹介

〔新聞〕

勝山 滋「歴史画再発見」『新美術新聞』2002年2月11日

勝山 滋「湘南ゆかりの画家」『神奈川新聞』2002年2月21日

無記名「文化往来 安田鞞彦展、画業の歩みを端的に」『日本経済新聞』2002年3月7日

田中三蔵「歴史解釈重ね 心理まで描写」『朝日新聞(夕刊)』2002年3月7日

草薙奈津子「近代人の精神映した『風神雷神』」『東京新聞(夕刊)』2002年3月16日

常設展示・特集展示

今年度の常設展示では3回の展示替えをおこなうとともに、特集展示「幻視-その直感と観察」を開催した。今年度は、「10周年記念 美術館のあゆみ」展が2室を利用した展示となるのにもない、該当期間の常設展示、特集展示はなしとなった。また「安田靉彦」展が展示室2を利用するのにもない、第3回常設展示は展示室1で行った。

■第1回常設展示 5/15(火)～7/22(日) 展示室2全室

所蔵品から、①井上三綱と本莊昶、二見利節 ②ゆかりの日本画家 ③抽象系の作家たち ④湘南ゆかり・湘南を画いた作家たち の、4コーナーにわけて展示した。とくに③では、菅野陽、恩地孝四郎、勝呂忠、柴田周一、平野杏子、島田しづ、土井俊泰、古川恂、平賀敬(初期作品)らの作品を「抽象」という枠組みで紹介。

出品点数：103点

担当：小池光理(①)、尾崎真人(②③④)

■第2回常設展示 10/4(木)～1/20(日) 展示室2全室

所蔵品から、①松本節一夭折の画家― ②湘南ゆかりの作家と作品 ③洋画家の東洋趣味―小出楯重、岸田劉生、鳥海青児― の3つのコーナーにわけて展示。①では、前年度に修復をほどこした松本節の初公開を含む約15点を展示するほか、③では岸田劉生の南画、鳥海青児の天津絵、水墨画など、洋画を専門として活動していた画家たちが、余技的に制作した絵画を紹介した。

出品点数：88点

担当：郡司亜也子

■第3回常設展示 1/24(木)～5/26(日) 展示室1全室

平成12年度に寄贈、寄託された作品を中心に、近年収蔵された作品をまとめて公開した。鈴木至夫、柴田周一、大島哲以、二見利節、井上三綱、三岸節子、平賀敬、ヴァンダーリッヒなどの作品が、どのような理由で当館の収蔵作品となりえたのかを、考えてもらうことによって、美術館の収集意義を問う展覧会とした。

出品点数：55点

担当：尾崎真人

■特集展示 幻視―その直感と観察 2/8(土)～1/29(土) 展示室1半室

不思議の国のアリスが、穴に落ちることによって、また引き出しの中からナルニア国のファンタジーが始まるように、絵画はキャンバスや屏風の前に立つことから、二次元空間から三次元空間へというファンタジーが発生する。つまり遠近や陰影によるリアル(=実際にそこに存在しているかのように)見える、イリュージョンニスム(=現実だと錯覚させてしまう視覚効果)が始まる。さらに作家によっては、死後の世界や、彼岸の世界という見たこともない世界を視覚化する作家もいる。ここでは二重のイリュージョン(=虚構世界を現実世界と錯覚享受)が仕組まれている。このイリュージョンを仕掛けている作家の位置を考えることによって、作品世界を読み、絵画の置かれている現実との関連を考えてもらいたい。

また現状の洞察によって、幻視化された対象物のイメージ像を<幻視結晶>とし、そして空間全体が<幻視>化された空間を<幻視空間>と仮に称してみるが、こうした<幻視結晶>や、<幻視空間>との直感や観察の関連を考察してもらった。さらに私たちが見ている世界は、どこまでが本当なのだろうかと作品から考えてもらった。

出品点数：67点

担当：尾崎真人



松本節作品展示風景



「幻視-その直感と観察」入り口



「幻視-その直感と観察」展示風景

第1回常設展示 2001年5月15日（火）～2001年7月22日（日）

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
■井上三綱と本荘越、二見利節				
1	井上 三綱	自画像	不詳	油彩・キャンバス
2	井上 三綱	馬の親子	1930頃	油彩・キャンバス
3	井上 三綱	髪	1948頃	油彩・キャンバス
4	井上 三綱	馬を御す	1950	墨、弁柄、胡粉・キャンバス
5	井上 三綱	女達	1953頃	油彩、墨、弁柄、胡粉・ボード
6	井上 三綱	駆け出した牛	1956	油彩、墨、弁柄、胡粉・キャンバス
7	井上 三綱	習作	1956	墨、弁柄、胡粉・ボード
8	井上 三綱	はたおり	1956	墨、弁柄、胡粉・キャンバス
9	井上 三綱	仕事する女達	1957	油彩、墨、弁柄、胡粉・キャンバス
10	井上 三綱	まり遊び	1957頃	油彩、墨、弁柄、胡粉・ボード
11	井上 三綱	働く人	1958	墨、石膏・紙
12	本荘 越	残照	1943	油彩・紙
13	本荘 越	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
14	本荘 越	崖壁	1970	油彩・キャンバス
15	本荘 越	葛葉台	1977	油彩・キャンバス
16	本荘 越	山麓の街	1978	油彩・キャンバス
17	本荘 越	建てる	1982	油彩・キャンバス
18	本荘 越	坂道	1982	油彩・キャンバス
19	本荘 越	朝	1986	油彩・キャンバス
20	本荘 越	廃屋	1987	油彩・キャンバス
21	二見 利節	工作机	1956	油彩・板
22	二見 利節	幾何学的構成	1962	オイルパステル・紙
23	二見 利節	羅上	1971	水彩、オイルパステル・紙
24	二見 利節	羅上	1971	水彩、ペン、胡粉・紙
25	二見 利節	柿の実のある風景	1971	油彩・キャンバス
26	二見 利節	マドモアゼル美保	1973	油彩・キャンバス
27	二見 利節	牛	1975	パステル・紙
28	二見 利節	牛	1975頃	水彩、パステル・紙
29	二見 利節	裸婦のいる風景	1975	油彩・キャンバス
30	二見 利節	抽象 (S-001)	1962	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
31	二見 利節	人物群 (S-002)	1962頃	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
32	二見 利節	人物 (S-006)	1960～75	パステル、クレヨン、コンテ等・紙

寄託
寄託

33	二見 利節	抽象 (S-007)	1962頃	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
34	二見 利節	人物群 (S-009)	1962頃	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
35	二見 利節	人物群 (S-011)	1962頃	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
36	二見 利節	人物群 (S-012)	1962頃	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
37	二見 利節	風景 (S-013)	1966	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
38	二見 利節	人物群 (S-015)	1962頃	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
39	二見 利節	抽象 (S-021)	1962	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
40	二見 利節	風景 (S-027)	1966	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
41	二見 利節	人物群 (S-029)	1962頃	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
42	二見 利節	人物群 (S-030)	1960~75	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
43	二見 利節	人物群 (S-031)	1962頃	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
44	二見 利節	植物 (S-032)	1962頃	パステル・紙
45	二見 利節	植物 (S-033)	1962頃	パステル・紙
46	二見 利節	人物群 (P-002)	1968	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
47	二見 利節	人物群 (P-010)	1960~75	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
48	二見 利節	抽象 (P-012)	1960~75	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
49	二見 利節	抽象 (P-015)	1960~75	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
50	二見 利節	静物 (P-017)	1958頃	パステル、クレヨン、コンテ等、水彩・紙
51	二見 利節	抽象 (P-020)	1960~75	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
52	二見 利節	抽象 (P-024)	1960~75	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
53	二見 利節	動物 (P-027)	1958頃	パステル、クレヨン、コンテ等、石膏、サインペン・紙
54	二見 利節	植物 (P-031)	1960~75	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
55	二見 利節	人物群 (P-032)	1958頃	パステル・紙 (ラシヤ)
56	二見 利節	抽象 (P-039)	1960~75	油彩・紙
57	二見 利節	人物群 (P-042)	1960~75	パステル、クレヨン、コンテ等・紙
■ゆかりの日本画家				
58	伊藤 彬	月のうてな	1986	紙本着色
59	今村 紫紅	熱国之巻 (小下絵)	1913頃	紙本着色
60	工藤 甲人	樹木のうた	1956	紙本着色
61	工藤 甲人	相	1984	紙本着色
62	近藤 弘明	幻光—御感の藤—	1987	紙本着色
63	近藤 弘明	寂照夜	1992	紙本着色
■抽象系の作家たち				
64	恩地孝四郎	コンポジション	1953	リトグラフ・紙
65	恩地孝四郎	ポエムNo.21	1953	木版、混合技法・紙
66	柴田 周一	無題	1980	アクリル・キャンバス
67	柴田 周一	Blank 80-5	1980	アクリル・キャンバス
68	鳥田 しづ	時潮	1992	水彩・ボード
69	菅野 陽	かにの横ばい	1951頃	油彩・キャンバス
70	菅野 陽	「午前の歌」より 風のえちうど	1963	エッチング・紙
71	菅野 陽	「午前の歌」より 海	1963	エッチング・紙
72	勝呂 忠	パンドラ	1953	油彩・キャンバス
73	勝呂 忠	太陽と人	1955	油彩・キャンバス
74	勝呂 忠	イ-L	1962	油彩・キャンバス
75	勝呂 忠	イ-M	1962	油彩・キャンバス
76	勝呂 忠	古代幻想	1967	油彩・キャンバス
77	土井 俊泰	作品イ	1960	油彩・キャンバス
78	平野 杏子	青い太陽	1987	油彩・キャンバス
79	平賀 敬	雨	1963	油彩・キャンバス
80	古川 恂	星と子供	1964	油彩・キャンバス
■湘南ゆかりの作家たち				
81	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
82	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
83	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス
84	岸田 劉生	石垣ある道 (鶴沼風景)	1921	油彩・キャンバス
85	椿 貞雄	鶴沼風景	1921	油彩・キャンバス
86	萬 鐵五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
87	萬 鐵五郎	富士	1924	油彩・キャンバス
88	萬 鐵五郎	羅布かづく人	1924	油彩・キャンバス
89	木村 莊八	ギターを弾く男 (鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
90	朝井閑右衛門	廃園に於いて	1926	油彩・キャンバス
91	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス

92	森田 勝	女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
93	金沢 重治	風強き浜辺	1930	油彩・キャンバス
94	牧野 虎雄	庭小径 (秋)	1936	油彩・板
95	松本 節	温室	1931	油彩・板
96	原 精一	女の顔 (陳少姐)	1942	油彩・キャンバス
97	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
98	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
99	澤田 政廣	甲斐駒と聖徳太子	不詳	木
100	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
101	鳥海 青児	ピカドール (3)	1958頃	オイルパステル、インク・紙
102	鳥海 青児	ピカドール (4)	1958頃	パステル、鉛筆・紙
103	鳥海 青児	ピカドール (5)	1958頃	オイルパステル、鉛筆・紙
104	鳥海 青児	ピカドール (6)	1958頃	パステル、鉛筆・紙

第2回常設展示 2001年10月4日 (木) ~2002年1月20日 (日)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
■松本節 - 夭折の画家 -				
1	松本 節	窓	1929	油彩・キャンバス
2	松本 節	早春	1930	油彩・キャンバス
3	松本 節	室内	1930	油彩・キャンバス
4	松本 節	庭	1930頃	油彩・キャンバス
5	松本 節	雛芥子	1930頃	油彩・キャンバス
6	松本 節	温室	1931	油彩・キャンバス
7	松本 節	梅林	1931	油彩・キャンバス
8	松本 節	つた繁る頃	1933	油彩・キャンバス
9	松本 節	魔苑の夏	1934	油彩・キャンバス
10	松本 節	瑞泉寺	1934	油彩・キャンバス
11	松本 節	霧ヶ峰風景	1936	油彩・板
12	松本 節	ひまわりと雲	1937	油彩・キャンバス
13	松本 節	富士遠望	1937	油彩・キャンバス
14	松本 節	漁師	1937	油彩・キャンバス
15	松本 節	由比ヶ浜	1938	油彩・キャンバス
16	松本 節	土蔵のある風景	1938	油彩・板
17	松本 節	自画像	1938	油彩・キャンバス
18	松本 節	柿の木のある風景	1940	油彩・キャンバス
19	松本 節	教会	1941	油彩・板
20	松本 節	稲村ヶ崎から富士を望む	不詳	油彩・板
21	松本 節	温室のある庭	不詳	油彩・ボード
22	松本 節	芝居	不詳	紙本墨画
23	松本 節	家のぼら	1936	油彩・板
24	松本 節	街並	1939	油彩・板
■湘南ゆかりの作家				
26	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
27	萬鐵 五郎	住吉神社風景	1909頃	油彩・板
28	萬鐵 五郎	富士 (砂丘風景)	1924	油彩・キャンバス
29	小糸源太郎	早春	1942	油彩・キャンバス
30	鍋井 克之	勝浦温泉		油彩・キャンバス
31	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
32	中川 一政	椅子の女	1941	油彩・キャンバス
33	林倭 衛	白い橋と緑樹		油彩・キャンバス
34	椿貞 雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
35	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
36	中村 琢二	永浜氏像	1949	油彩・キャンバス
37	井上 三綱	箱根紅葉	1941	墨、弁柄、胡粉、岩絵具・キャンバス
42	井上 三綱	武人たち	不詳	油彩、墨、弁柄、胡粉・ボード
38	井上 三綱	髪	1948頃	油彩、弁柄、胡粉・キャンバス
43	井上 三綱	麦畠	不詳	インク・紙
39	井上 三綱	畑のある風景	不詳	インク・紙
41	井上 三綱	牛の親子	不詳	墨、弁柄、胡粉・紙、ベニヤ板貼り
44	高田 力蔵	朝霧のノートルダム	1967	油彩・キャンバス
45	朝井閑右衛門	庭園に於て	1926	油彩・キャンバス
40	原 精一	本を見る女	1934	油彩・キャンバス

54	鳥海 青児	木心の出た法隆寺塑像	1967	油彩・キャンバス
56	鳥海 青児	根来瓶子と果物	1971	油彩・キャンバス
55	鳥海 青児	メキシコ人の家族	1969	油彩・キャンバス
49	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
46	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
50	鳥海 青児	天津のフランス寺院	1942	油彩・キャンバス
47	鳥海 青児	サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
51	鳥海 青児	シルクの馬 (サーカスの馬)	1954	油彩・キャンバス
52	鳥海 青児	スペイン風景	1959	油彩・キャンバス
53	鳥海 青児	はにわ	1959	油彩・キャンバス
48	鳥海 青児	アルゼリー港	1933	油彩・キャンバス
57	森田 勝	柿	1942	油彩・キャンバス
58	本荘 越	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
59	本荘 越	朝	1986	油彩・キャンバス
60	本荘 越	砂丘晩秋	1969	油彩・キャンバス
61	本荘 越	淡雪	1968	油彩・キャンバス
62	北澤 映月	女人記	1972	紙本着色
63	山下大五郎	砂丘	1965	油彩・キャンバス
70	二見 利節	箱根 芦ノ湖	1970~75	油彩・キャンバス
69	二見 利節	抽象	1960~75	油彩・キャンバス
66	二見 利節	ギリシャの壺	1970	油彩・キャンバス
65	二見 利節	男鹿の景	1941頃	油彩・キャンバス
64	二見 利節	集い	1940	油彩・キャンバス
67	二見 利節	ナナカマド	1970	油彩・キャンバス
68	二見 利節	柿	1974	油彩・キャンバス
71	工藤 甲人	わが壁に	1985	紙本着色
72	国領 経郎	寂夏	1983	油彩・キャンバス
73	宮崎 進	海	1978	油彩・キャンバス
74	近藤 弘明	寂韶苑	1982	紙本着色
75	勝呂 忠	太陽と人	1955	油彩・キャンバス
76	鳥田 章三	室内景	1998	油彩、コラージュ・合板
77	伊藤 彬	婦林帰水	1994	墨、木炭・麻紙

■洋画家の東洋嗜好

78	岸田 劉生	永日小品	1926	紙本着色
79	小出 檜重	めでたき風景	1926	紙本墨画淡彩
80	鳥海 青児	職人画素描	1939~44頃	紙本墨画
81	鳥海 青児	長刀弁慶	不詳	紙本着色
82	鳥海 青児	毘沙門天	不詳	紙本着色
83	鳥海 青児	荷持奴	不詳	紙本着色
84	萬鐵 五郎	茅ヶ崎風景	1922	紙本墨画淡彩
85	萬鐵 五郎	田園風景	1921~27頃	紙本墨画
86	萬鐵 五郎	茅ヶ崎風景	1925	紙本墨画淡彩
87	萬鐵 五郎	風景	1921~27頃	紙本墨画
88	森田 勝	美校在学中スケッチブック(1)より	1927	鉛筆・紙

第3回常設展示 2002年1月24日(木)~2002年5月26日(日)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
■どうして新収蔵品となりえたか				
1	井上 三綱	男体山	1964	油彩・キャンバス
2	大島 哲以	鳥儒激戦	1967	アクリル、アルミ箔、墨・紙
3	大島 哲以	華燭	1971	グアッシュ、アクリル・キャンバス
4	柴田 周一	Space79-4	1979	アクリル・キャンバス
5	柴田 周一	Space79-6	1979	アクリル・キャンバス
6	柴田 周一	blank80-5	1980	アクリル・キャンバス
7	柴田 周一	無題	1980	アクリル・キャンバス
8	鈴木 至夫	雪原	1983	顔料・紙
9	鈴木 至夫	冬の日本海	1985	顔料・紙
10	平賀 敬	雨	1963	アクリル・キャンバス
11	平賀 敬	線香花火	1986	アクリル・キャンバス
12	平賀 敬	河豚鱈の間	1987	アクリル・キャンバス
13	平賀 敬	連夜の室内	1990	アクリル・キャンバス
14	平賀 敬	観桜の間	1990	アクリル・キャンバス

寄託
寄託
寄託
寄託

15	平賀 敬	光る海	1991	アクリル・キャンバス	寄託
16	平賀 敬	連夜の街K氏の災難	1992	アクリル・キャンバス	寄託
17	平賀 敬	廊下とんびのいる室内	1992	アクリル・キャンバス	寄託
18	平賀 敬	花遊園	1994	アクリル・キャンバス	寄託
19	平賀 敬	大観先生のいる風景	1994	アクリル・キャンバス	寄託
20	平賀 敬	魚眠館異聞	1998	アクリル・キャンバス	寄託
21	平賀 敬	窓Ⅰ	1998	アクリル・キャンバス	寄託
22	平賀 敬	窓Ⅱ	1998	アクリル・キャンバス	寄託
23	平賀 敬	クリシー病院の見舞客	1975	アクリル・キャンバス	
24	二見 利節	傘屋	1938	油彩・キャンバス	寄託
25	二見 利節	長野原の紅葉	1942	油彩・キャンバス	
26	三岸 節子	アルス村の広場	1978	油彩・キャンバス	
27	パウル・ヴンダーリッヒ	ネズミを抱く女	1959	油彩・ボード	寄託
28	パウル・ヴンダーリッヒ	「1944年7月20日」	1959	油彩・キャンバス	寄託
29	パウル・ヴンダーリッヒ	無題	1964	油彩・グワッシュ	寄託
30	パウル・ヴンダーリッヒ	レジェンド	1964	グワッシュ・紙	寄託
31	パウル・ヴンダーリッヒ	脚	1968	油彩・キャンバス	寄託
32	パウル・ヴンダーリッヒ	肢体	1969	グワッシュ・紙	寄託
33	パウル・ヴンダーリッヒ	黄昏 テーブルの上で	1971	グワッシュ・紙	寄託
34	パウル・ヴンダーリッヒ	草原でのヨアナ	1971	グワッシュ・紙	寄託
35	パウル・ヴンダーリッヒ	子犬を膝に抱く婦人	1974	リトグラフ	寄託
36	パウル・ヴンダーリッヒ	メデューサⅠ	1975	グワッシュ・キャンバス	寄託
37	パウル・ヴンダーリッヒ	テラス	1975	リトグラフ	寄託
38	パウル・ヴンダーリッヒ	横たわる女体		水彩、クレヨン・紙	寄託
39	パウル・ヴンダーリッヒ	形勢 251		墨・印画紙	寄託
40	パウル・ヴンダーリッヒ	テーブルに着く帽子を被った婦人と犬	1980	リトグラフ	寄託
41	パウル・ヴンダーリッヒ	ダナエ	1980	リトグラフ	寄託
42	パウル・ヴンダーリッヒ	いけばな	1980	リトグラフ	寄託
43	パウル・ヴンダーリッヒ	風景Ⅰ	1980	リトグラフ	寄託
44	パウル・ヴンダーリッヒ	風景Ⅰ	1980	リトグラフ	寄託
45	パウル・ヴンダーリッヒ	鷹	1980	リトグラフ	寄託
46	パウル・ヴンダーリッヒ	ミネルバ	1985	リトグラフ	寄託
47	パウル・ヴンダーリッヒ	赤毛の貴婦人	1988	リトグラフ	寄託
48	パウル・ヴンダーリッヒ	ボンベイからの貴婦人	1988	リトグラフ	寄託
49	パウル・ヴンダーリッヒ	魔術師	1988	リトグラフ	寄託
50	パウル・ヴンダーリッヒ	マラー	1989	リトグラフ	寄託
51	パウル・ヴンダーリッヒ	足のある魚	1973	ブロンズ	寄託
52	パウル・ヴンダーリッヒ	小さなニケ	1975	ブロンズ	寄託
53	パウル・ヴンダーリッヒ	ミノタウロス 小		ブロンズ	寄託
54	パウル・ヴンダーリッヒ	鷹 V2	1983	ブロンズ	寄託
55	パウル・ヴンダーリッヒ	一角獣	1987	ブロンズ	寄託

特集展示「幻視—その直感と観察」 2001年12月8日(土)～2002年1月19日(土)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
■現実生活で見る<幻視>=<異形の人々>				
1	大島 哲以	鳥儒激戦	1967	アクリル、グアッシュ、アルミ箔、墨・紙
2	山下 菊二	葬列		油彩・キャンバス
3	菅野 陽	四人	1954	油彩・キャンバス
4	菅野 陽	おどり(四人)	1959	銅版・紙
5	菅野 陽	あるくむれ	1957	銅版・紙
6	菅野 陽	箱の人形	1974	銅版・紙
7	菅野 陽	人形胸像	1974	銅版・紙
8	菅野 陽	夜	1976	銅版・紙
■現実生活で見る<幻視>=<擬人化とメタモルフォーゼ>				
9	工藤 甲人	樹木のうた	1956	顔彩、銀箔・紙
10	パウル・ヴンダーリッヒ	スフィンクスと犬	1978	リトグラフ
11	パウル・ヴンダーリッヒ	椅子メタモルフォーゼ	1968	銅版
12	パウル・ヴンダーリッヒ	コミュニケーション	1982	リトグラフ
13	パウル・ヴンダーリッヒ	椅子	1967	リトグラフ
14	パウル・ヴンダーリッヒ	靴	1977	リトグラフ
15	パウル・ヴンダーリッヒ	靴	1976	ブロンズ
16	パウル・ヴンダーリッヒ	足のある魚	1973	ブロンズ

■現実生活で見る<幻視>=<暴露される人間戯作>				
17	平賀 敬	雨	1963	油彩・キャンバス 寄託
18	平賀 敬	クリシー病院の見舞客	1975	アクリル・キャンバス
19	平賀 敬	大観先生のいる風景	1994	アクリル・キャンバス 寄託
20	平賀 敬	窓	1998	油彩・キャンバス 寄託
21	平賀 敬	魚眠館異聞	1998	油彩・キャンバス 寄託
■現実生活で見る<幻視>=<孤絶な空間と不安な空間>				
22	鈴木 至夫	冬の日本海	1985	紙本着色
23	島田 章三	はこぶね	1966	油彩・キャンバス
■現実生活で見る<幻視>=<増殖するイメージ>				
24	二見 利節	麦 蓬菜の家	1960頃	パステル、臘・紙
25	二見 利節	麦	1960代前半	油彩、色鉛筆・紙
26	二見 利節	麦	1960代前半	油彩、パステル、コンテ・紙
27	二見 利節	麦	1960代前半	油彩、パステル・紙
28	二見 利節	麦	1960代前半	油彩、色鉛筆・紙
29	二見 利節	麦	1962	パステル・紙
■実生活とアナザー・ワールドの<通路>、そして追憶の<回路>				
30	近藤 弘明	幻光-御感の藤-	1987	顔彩・紙
31	工藤 甲人	次郎雲	1970	顔彩・紙
32	工藤 甲人	愉しき仲間 (一)	1951	顔彩・紙
33	工藤 甲人	愉しき仲間 (二)	1951	顔彩・紙
■異なる世界への<幻視>=<自然同化から彼岸世界へ>				
34	伊藤 彬	夢のいりぐち	1987	顔彩・紙
35	伊藤 彬	帰山	1988	墨、木炭、金泥、岩絵具・麻紙
36	伊藤 彬	月のうてな	1986	顔彩・紙
37	近藤 弘明	寂照夜	1992	顔彩・紙
38	佐藤 晨	旅の終りに	1971	顔彩・紙
■異なる世界への<幻視>=<タナトスとエロス>				
39	奥谷 博	地	1986	油彩・キャンバス
40	大島 哲以	華燭	1971	アクリル、グアッシュ・キャンバス
41	山下 菊二	死霊とともに	1962	油彩・ベニヤ板
42	バウル・ヴァンダーリッヒ	ささやかな解剖学	1963	リトグラフ
43	バウル・ヴァンダーリッヒ	16273	1959	油彩・キャンバス
44	横地 康國	光を求める群	1968	油彩・キャンバス
45	島田 章三	エウローベ	1968	油彩・キャンバス
46	バウル・ヴァンダーリッヒ	暗い森の中で	1965	リトグラフ
47	バウル・ヴァンダーリッヒ	レダと白鳥	1965	リトグラフ
48	バウル・ヴァンダーリッヒ	天使と雌オオカミ	1966	リトグラフ
49	バウル・ヴァンダーリッヒ	最愛の雌オオカミ	1966	リトグラフ
50	バウル・ヴァンダーリッヒ	指差す天使	1966	リトグラフ
51	バウル・ヴァンダーリッヒ	青い天使	1967	リトグラフ
52	バウル・ヴァンダーリッヒ	女漁師	1967	リトグラフ
53	バウル・ヴァンダーリッヒ	親友 I	1965	リトグラフ
54	バウル・ヴァンダーリッヒ	親友 II (ゴールドフィンガー)	1965	リトグラフ
55	バウル・ヴァンダーリッヒ	親友 II (ゴールドフィンガー)	1965	リトグラフ
■異なる世界への<幻視>=<童心と時空の移動>				
56	古川 恂	星と子供	1964	油彩・キャンバス
57	黒崎 義介	一寸法師と鬼	1974	顔彩・紙
58	田口 雅巳	晴姿江戸夕映八百屋お七		油彩・キャンバス
59	田澤 茂	太陽の街	1968	油彩・キャンバス
60	塚越 源七	世界のかくれんぼ	1970	油彩・キャンバス
■異なる世界への<幻視>=<象徴と抽象>				
61	朝井閑右衛門	悪霊と道化	1972	油彩・紙
62	恩地孝四郎	ポエム No21	1953	木版、混合技法・紙
63	土井 俊泰	作品イ	1960	油彩・キャンバス
64	今村 信夫	遊び場	1966	油彩・キャンバス
65	勝呂 忠	古代幻想	1967	油彩・キャンバス
66	平野 杏子	青い太陽	1987	油彩・キャンバス
67	島田 しづ	時潮	1992	水彩・ボード

教育・普及

1. 教育普及活動

美術館の教育普及活動は、美術をめぐるコミュニケーションを美術館という場を通して活性化することで、美術に親しむ人を拡げることにある。生涯学習という観点から、多様な来館者へのプログラムの提供が必要とされているが、当館では美術館と来館者・利用者がプログラムを実施するプロセスにおいて協働することで、美術や美術館の活動を創造し実践する場をうみだす美術に関わる人材の育成をおこなった。実施したプログラムは以下のとおりである。

I. 陶芸教室

①初心者陶芸教室

土練りからはじめて、手捻りにより作品をつくり、釉薬をかけ、窯詰め窯だしまでを5日間で体験する講座とした。焼き物をつくるためにはいろいろな工程があり、そのどれもが欠くことのできない作業である。この講座では、素材である粘土に焦点をあて、その特徴を理解するために、土練り、形成に時間をかけた。

参加対象 高校生以上18名
開催日 5月6日、13日、20日、6月3日、10日
2月3日、10日、17日、3月3日、10日
時間 13:00~16:50
場所 美術館アトリエB
担当 山崎隆雄（当館嘱託員）

②夏休み子供陶芸教室

小学校の低学年を対象に2講座、高学年を対象に2講座開催した。1年から3年生の低学年は、テラコッタ粘土を使い、粘土遊びの延長から、その特徴をつかむことを目的とした。4年生のから6年生の高学年は、「うつわ」という機能を条件にとりて作品をつくった。特に高学年の講座は、粘土という素材になれているこどもたちが、焼き物としての粘土の特徴、形成の違いを学ぶことを目的に手捻りとタタラづくりを取り入れる。

参加対象 小学生各コース18名
開催日 Aコース 7月24日、Bコース 26日、Cコース 31日、Dコース 8月2日
時間 13:00~16:50
場所 美術館アトリエB
担当 山崎隆雄（当館嘱託員）

II. 美術館レクチャー「冬のひだまり美術講座」

当館の学芸員による、テーマをもった美術レクチャーを開催した。各学芸員が現在研究している美術の問題を解りやすく、そして美術ファンに親しんでもらうプログラムとして全5回開催された。多様な美術ファンを対象とするために、現代美術、中世・近世の日本絵画、湘南の近代洋画、ヨーロッパの近代美術、日本の近代日本画といった幅広いジャンルからテーマが選ばれた。

2月3日「ゴミ・制度・肉体・コミュニケーションがARTになるとき」	尾崎 真人
2月10日「中世・近世絵画の楽しみかた—金と墨—」	郡司亜也子
2月24日「私たちの身近な湘南の洋画家たち」	森田 英之
3月10日「ヨーロッパ近代美術の誕生—絵画の革新者としてのマネ、モネ、ピカソ」	小池 光理

3月17日「独断で選ぶから楽しい日本画ベスト10」

勝山 滋

参加対象 一般

時 間 13:30~15:00

場 所 美術館アトリエA

講 師 当館学芸員

Ⅲ. ワークショップクラブ

もの（館蔵資料）について学ぶグループと、ひと（参加者）と関わるグループの2種を設け、美術や美術館について学ぶワークショップクラブで、登録メンバーにより実施。研修をおこない、美術館活動について学ぶとともに、美術館活動を理解・支援する地域の人材を育成する。

①ひとワークショップクラブ（定例ワークショップ開催準備）

3種類のプログラム（透かし葉、草木染、型どりなど）を実施する人材を育成した。9月～12月までが研修期間。主に養護学校のプログラムで実践をおこなった。（Ⅳを参照）

担当 端山聡子

②ものワークショップクラブ（資料整理）

学芸員によるレクチャーをおこない、美術館活動全体について12月まで研修し、その後公開・展示するためのプロセスである館蔵資料の整理に入った。今回は来年度に予定されている原精一展にあわせ、寄贈資料からアトリエ資料を中心に整理を進めた。

（7月22、29、8月4、9、23、25、28、9月2、6、7、14、20、21、29、10月7、12、18、19、27、11月4、7、8、9、13、15、21、28、12月2、4、5、6、7、14、19、21、22、25、1月9、10、13、18、20、24、25、30、31、2月7、8、11、15、19、22、26、28、3月3、6、12、14、22、28）の計60日開催、のべ567名の参加があった。

担当 端山聡子



ものワークショップクラブ



ひとワークショップクラブ



養護学校のワークショップ

Ⅳ. 養護学校などへのワークショップ

教育目的の依頼に基づき、ワークショップクラブのメンバーにより実施した。

- ①「わたしのからだを立体コピー」 茅ヶ崎養護学校20名（12月4日）、江陽中学校12名（2月22日）
- ②「葉っぱからアートへ」 平塚養護学校8名（12月6日）15名（3月14日）、伊勢原養護学校高等部1年50名（2月8日）、城所子供会30名（1月20日）

担当 端山聡子

Ⅴ. 博物館実習

美術を専攻する博物館実習生に対して毎年行っている。今年度は6月～2月に13名、10大学から実習生を受け入れた。

小田 洋輔 青山学院大学文学部史学科

神山 実紀 東海大学教養学部芸術学科美術学課程

加藤 桃子 実践女子大学美学美術史学科
 藤間 亮子 東海大学文学部文明学科
 鈴木 千鶴 跡見学園女子大学美学美術史学科
 武末 裕子 信州大学教育学部大学院教育学研究科教科教育専攻美術教育専修
 鶴巻 貴子 東海大学教養学部芸術学科美術学課程
 鈴木 千絵 明星大学日本文化学部生活芸術学科
 矢部 史子 東京工芸大学芸術学部デザイン学科
 佐々井奈緒 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科
 中津海裕子 東京大学文学部歴史文化学科美術史学専修
 杉山菜穂子 東京大学文学部歴史文化学科美術史学専修
 高橋奈緒子 共立女子大学国際文化学部日本文化専攻

VI. 視察・研修会の開催

教育目的の依頼により講座・研修会などを開催した。

- ①神奈川県教育研修センターの依頼で美術教諭を対象とした研修30名（8月28日）
 担当 端山聡子
- ②日本国際協力センターの招聘により来日したアジア各国の博物館学芸員に対する研修
 美術館の教育普及について解説し、ワークショップを体験。8ヶ国8名（9月19日）
 担当 端山聡子
- ③長崎国際大学の依頼で視察対応およびレクチャー（9月21日）
 担当 端山聡子
- ④南足柄市中部公民館講座「美術を楽しむ」
 南足柄市の依頼により、各学芸員による美術講座を開催（全4回）

中世の日本絵画	郡司亜也子（10月11日）
湘南の美術家たち	森田 英之（10月18日）
大正時代の日本画	勝山 滋（10月25日）
日本人西洋美術に出会う	小池 光理（11月18日）
- ⑤美術館案内
 厚木市睦合東中学校 10名 2001年7月26日
 担当 端山聡子

2. 企画展関連の教育普及及び活動

I. 「ヴンダーリッヒ」展関連プログラム

- ①講演会「石に咲くエロス」中林忠良（5月19日）
- ②学芸員によるギャラリートーク 7回開催
 （4月21日、29日、5月5日、13日、19日、27日、6月3日）
- ③ヴンダーリッヒ・ハンズオン講座 5回開催
 （会期中の毎週金曜 5月5日を除く）

II. 「湘南の美術・光」展関連プログラム

- ①ワークショップクラブ「湘南美術散歩」毎月2回、全17回開催した。
 湘南地域と美術・美術館との関わりについて学び、美術館建設に関わった専門家2名より講義を受けるほか、湘南地域の美術館や、湘南に縁のある作家達の作品を見学に出かけた。
 開催日 11日（7月21日、8月5日、26日、10月6日、11月3日、17日、12月1日、1月5日、19日、2月2日、3月2日）

講義	平野 博 (元平塚市収入役)	「平塚市の文化行政と作家たちの交流」	9月1日
	佐藤 義信 (株式会社 日建設設計)	「平塚市美術館の設計」	9月15日
見学	10月20日	山口蓬春記念館、神奈川県立近代美術館「近代日本美術史展」「神奈川の作家展」	
	12月15日	カスヤの森現代美術館、棟方版画美術館	
	2月16日	遊行寺、遊行寺宝物館、神奈川県立近代美術館「湘南の5人の画家展」 「パウル・クレー展」、鎌倉国宝館	
	3月16日	新井旅館登録文化財、「靱彦と良寛展」、湯河原ゆかりの美術館	

②『湘南の美術・光』展覧会レクチャー

館長、学芸担当長によるレクチャーを全3回開催おこなった。

「平塚市美術館のコレクション-洋画編-」	(8月5日)	福田 徳樹 (当館館長)
「平塚市美術館のコレクション-日本画編-」	(9月9日)	福田 徳樹 (当館館長)
「平塚市美術館のなりたち」	(8月26日)	森田 英之 (当館担当長)

Ⅲ. 「安田靱彦」展関連プログラム

①座談会-靱彦の生涯と画風 (2月16日)

鎌倉秀雄、安田健一、館長、学芸員による座談会を開催した。

②学芸員による作品解説 3回開催

『日食』のできるまで (2月9日)、『山本五十六元帥像』と『王昭君』 (2月23日)、
戦後の靱彦 (3月16日)

③春のお茶会 平塚茶道協会 (3月3日)



ヴンダーリッヒ展講演会



「ヴンダーリッヒ展」ギャラリー・トーク



湘南美術散歩



「湘南の美術・光」展館長レクチャー



「安田靱彦」展座談会



「安田靱彦」展作品解説

Ⅳ. その他

①ホームページの情報更新

平塚市美術館ホームページの情報を更新し、美術館からの情報発信の充実をはかった。

②図書コーナー

図書コーナー書籍の入れ替えを行った。

Ⅴ. 展覧会関連事業

企画展会期中に、展示解説、公民館と連携した団体レクチャーなどの開催により美術の理解と普及を図った。教育普及の展覧会関連の項目を参照

Ⅵ. 平塚市美術館協議会

美術館の機能・運営等に関し、広く学識経験者や教育関係者、市民等の意見を反映させ、美術館の充実と発展をはかるため、平塚市美術館協議会を設置している。現在8人の委員が任命されており、平成13年度は、協議会を2回開催し、美術館事業に関する審議のほか「美術館友の会」の発足にむけての審議を行った。

共催事業・館外活動

1. 美術館共催事業

I. 「第24回平塚市展」

主 催 平塚市展委員会

協 力 平塚書道協会、湘南工芸家協会、平塚美術家協会、平塚写真連盟、平塚市教育委員会

会 期 6月17日_7月1日 (13日間)

応募作品数 341点、入選作品数/395点、入賞作品/67点

観 覧 数 2,288人

II. コンサート

① 「湘南ジャズフェスティバル」

日 時 5月26日 18:00-19:40pm

参加者数 200名

主 催 平塚市文化財団、平塚市美術館

② 「七夕コンサート第6回 星たちの夜II」

日 時 9月22日 18:30-19:40pm

参加者数 204名

主 催 平塚ステーションビル ラスカ、平塚市美術館

③ 「ミュージアム・ジャズ・コンサート-タンゴの夕べ」

日 時 9月22日 18:00-19:40pm

参加者数 204名

主 催 平塚市文化財団、平塚市美術館

2. 館蔵品作品の広報活動

I. 所蔵作品解説

①「湘南の美術・光」『広報ひらつか』

渡辺 省亭 「常盤」	勝山 滋	第692号	2001年 4月 1日
坂巻 耕漁 「能面」	勝山 滋	第694号	2001年 5月 1日
山下大五郎 「平塚風景」	森田 英之	第696号	2001年 6月 1日
本荘 赳 「葛葉台」	森田 英之	第698号	2001年 7月 1日
近藤 弘明 「幻光-御感の藤」	尾崎 真人	第700号	2001年 8月 1日
工藤 甲人 「樹木のうた」	尾崎 真人	第702号	2001年 9月 1日
萬鉄 五郎 「湘南風景」	端山 聡子	第704号	2001年 10月 1日
原 精一 「黒衣少女」	端山 聡子	第706号	2001年 11月 1日
鳥海 青児 「シベリア駅路の雪」	小池 光理	第708号	2001年 12月 1日
鳥海 青児 「グーベルヌマン広場」	小池 光理	第710号	2002年 1月 1日
岸田 劉生 「永日小品」	郡司亜也子	第710号	2002年 2月 1日
鳥海 青児 「荷持奴」	郡司亜也子	第712号	2002年 3月 1日

②「美の散歩道」毎日新聞（神奈川版）

平賀 敬 「クリシー病院の見舞客」	勝山 滋	2001年 6月 27日
菅野 陽 「かにの横ばい」	尾崎 真人	2001年 9月 4日
原 精一 「たまごのある静物」	端山 聡子	2001年 11月 7日
鳥海 青児 「荷持奴」	郡司亜也子	2002年 3月 20日

③「湘南ゆかりの作家」神奈川新聞

今村 紫紅	「入る日・出る月」	勝山 滋	2002年 1月 17日
安田 靱彦	「日食」	勝山 滋	2002年 2月 21日
萬 鉄五郎	「宙腰の人」	郡司亜也子	2002年 3月 7日
前田 青邨	「秋風五丈原」	郡司亜也子	2002年 3月 21日

④その他

「絵を見る」『ラスカ・タイムズ』			
安田 靱彦	「赤星母堂像」	福田 徳樹	「絵を見る23」 2001年 4月号
近藤 弘明	「寂照夜」	福田 徳樹	「絵を見る24」 2001年 6月号
保田 春彦	「赤錆の幕舎」	福田 徳樹	「絵を見る25」 2001年 8月号
別府寛一郎	「霧のベネチア」	福田 徳樹	「絵を見る26」 2001年 10月号
籙木 清方	「洛外之春」	福田 徳樹	「絵を見る27」 2001年 12月号
山下大五郎	「早春」	福田 徳樹	「絵を見る28」 2001年 2月号

「美の倉」『青淵』（渋沢青淵記念財団龍門社発行）

坂巻 耕漁	「能面」	勝山 滋	第629号 2001年 8月 1日
榊原 文翠	「鷹野之図」	勝山 滋	第634号 2001年 1月 1日

3. 研究活動

学芸員による美術館外での主な研究活動を報告します。当館収蔵作品、そしてゆかり作家に関するもの、公的な意味合いを持つ研究発表、評論活動を中心に記載した。

I. 講演会・美術講座などの口頭発表

〔講座・講義〕

端山 聡子	「プロデュースの現在 美術館の教育普及」	多摩美術大学	2001年 5月30日
	「博物館実習Ⅰ 美術館の教育普及」	武蔵野美術大学	2001年 7月 9日
尾崎 真人	「空間と重力による空間」	日本大学芸術学部 美術彫刻研究室	2001年11月12日

〔講演会〕

尾崎 真人	かながわオープン・カレッジ「前衛美術・再読－表面の否定から通路の発見へ」	神奈川県立近代美術館	11月18日
-------	--------------------------------------	------------	--------

II. 著書・論文・エッセイ・作品解説研究

〔論文〕

尾崎 真人	「＜眠る農民＞にみる、常田健の時代との距離」	展覧会図録『常田健展』	新津市美術館2001年6月、酒田市美術館2001年11月（財）NHKサービスセンター発行
福田 徳樹	「河合玉堂と大下藤次郎」	展覧会図録『青梅市ゆかりの画家・工芸家展』	青梅市美術館主催 同館発行 2001年10月
端山 聡子	「美術館から見た学校との連携」	『神奈川県博物館協会会報』	第73号 同会発行2001年12月
郡司亜也子	「松林図の特質と位置－研究史を中心に－」	展覧会図録『国宝松林図屏風展』	出光美術館主催 同館発行2002年2月

〔展 評〕

尾崎 真人 「横浜トリエンナーレ展覧会-問われる現代美術、大衆化の方法論」 『赤旗』
2001年10月28日

〔作品解説〕

勝山 滋 「美の倉-横田七郎くめざし>」 『青淵』 第640号2002年12月1日 渋沢青淵記念財団龍門社
発行

〔エッセイ〕

福田 徳樹 「アート紀行-秋愁記-ベネチア・ベルリン・ヨコハマ」 『新制作協会会報No.42』
新制作発行 2001年12月

Ⅲ.その他の活動

〔作品発表〕

福田 徳樹 “AD NOS, NAGASAKI (私たちの長崎へ)” 第65回新制作展絵画部出品

〔審査会〕

尾崎 真人 「平成13年度平塚市緑化ポスターコンクール」 平塚市 2001年9月27日

〔フォーラム・ファシリテーター〕

小池 光理 「アンドリュウ・ワイエス展」 にともなうワイエス・フォーラムのファシリテーター
丸沼芸術の森 2001年10月27日～28日

〔フォーラム・パネラー〕

尾崎 真人 「鳥取県美術館 (仮称) フォーラム」 鳥取県2001年12月1日

〔作家対談〕

尾崎 真人 「今日の作家-中村孝平展」 大阪府立現代美術センター 2002年3月2日

保存・修復

保存・修復作品

No.	作者名	作品名	技法・材質	サイズ (cm)
絵画 (修復)				
1	瀬島 好正	椅子にかける少女(仮題)	油彩・キャンバス	102.3 × 52.4
2	瀬島 好正	ミシン屋	油彩・キャンバス	116.0 × 90.3
3	瀬島 好正	花	油彩・キャンバス	45.8 × 38.1



椅子にかける少女(仮題)



ミシン屋



花(仮題)

彫刻・立体 (保存・メンテナンス)

1	保田 春彦	赤錆の幕舎	COR-TEN鋼	257.0×296.0 × 209.0
2	佐藤 忠良	緑	ブロンズ	190.0×80.0 × 70.0
3	舟越 保武	海の顕彰碑 渚	ブロンズ	194.0×60.0 × 50.0
4	柳原 義達	座る女	ブロンズ	71.0×100.0 × 45.0
5	淀井 敏夫	海	ブロンズ	340.0×230.0 × 90.0
6	ホセ・デリヴェラ	コンストラクション#115	ステンレススチール	612.0×853.0 × 912.0

収蔵庫虫害調査 (虫害モニタリング)

I P M (Integrated Pest Management, 総合的有害生物管理) が、今や美術館や博物館施設の資料保存にとって重要なものになってきている。その理由は、貴重な文化財として収蔵、保存する資料類の虫やカビによってうける被害が、光などによる劣化にくらべて極めて進行が速いということにある。したがって毎年、害虫が羽化し活動をはじめめる時期を狙って施設全体を臭化メチルという文化財に対し影響の少ないしかも殺虫能力の高い毒ガスを使用し燻蒸処置を行うのが20年前からの慣例であった。ところが「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書締結国会議」でこの臭化メチルがオゾン層を破壊する物質として先進国で2005年1月に全廃されることになり、既に臭化メチルは使用できない状態になってきている。代替薬品の開発が急務となっているが、燻蒸そのものを行わない体制づくりがより基本的に重要である。その一環として館内に入り込む虫1匹をも見逃さない管理体制が必要になっているのである。本年も昨年同様、館職員による展示室のサンプリングと財団法人文化財虫害研究所に委託し専門官による収蔵庫のサンプリング、同定、モニタリング報告をおこなった。

実施期間： 2002年3月5日(火) 資料サンプリング収蔵庫1・2、20日(日) 資料サンプリング 展示室、

結果報告： 使用したトラップ(採取器)はゴキブリ用粘着トラップ8個、ジンサンシバンムシ用フェロモントラップ8個、タバコシバンムシ用トラップ5個で収蔵庫の床に配置し、2週間後に回収した。チャタテムシやシミ類の微細な虫の発見もなかったことから虫害やその被害が発生しているとは考えられない。従って収蔵庫燻蒸をおこなう必要がないとの結論を得た。

害虫採取記録：館内における年間害虫採取について今年度は、清掃作業員に協力を求め害虫の発見、採取に努めた。チャバネゴキブリ2、ヒメマルカツオブシムシ1の飛来が搬入口、荷解き室にて確認、採取した。

収蔵・貸出

収蔵作品 [] は仮題

	作者名	作品名	制作年	技法	寸法(cm)	寄贈者
1	小関 利雄	パイワン親子	1942年	油彩・キャンバス	130.3×97.0	小関利紀也
2	小関 利雄	白に	1960年	油彩・ベニヤパネル	91.6×109.9	小関利紀也
3	小関 利雄	丘の街 スペイン	1963年	油彩・キャンバス	91.2×116.7	小関利紀也
4	小関 利雄	風景	1967年	油彩・キャンバス	80.0×100.0	小関利紀也
5	小関 利雄	箱根風景	1968年	油彩・キャンバス	80.5×100.0	小関利紀也
6	小関 利雄	港	1969年	油彩・キャンバス	80.5×100.0	小関利紀也
7	小関 利雄	韓国の印象 (1)	1970年	油彩・キャンバス	100.0×80.0	小関利紀也
8	小関 利雄	黄地蔵	1978年	油彩・キャンバス	91.0×117.0	小関利紀也
9	小関 利雄	天の岩戸 (2)	1979年	油彩・キャンバス	91.2×117.0	小関利紀也
10	小関 利雄	蛙の5月祭	1986年	油彩・キャンバス	91.2×117.0	小関利紀也
11	小関 利雄	動物日記 水泳大会	1984年	油彩・キャンバス	91.2×117.0	小関利紀也
12	金子 保	芍薬の花	1919年	油彩・キャンバス	65.2×53.2	金子隆
13	金子 保	八ヶ岳 (清里)	1943年	インク・紙	24.5×47.0	金子隆
14	金子 保	赤門	不詳	油彩・キャンバス	72.9×90.9	金子隆
15	金子 保	根室花咲燈台	1955年	油彩・キャンバス	91.5×65.5	金子隆
16	金子 保	北大ポプラ並木	1955年	油彩・キャンバス	91.6×72.8	金子隆
17	金子 保	鵠沼海岸	1976年	インク・紙	312×40.8	金子隆
18	金子 保	資料一式		消息類		金子隆
19	岸田 劉生	金子保	1909年	鉛筆・紙	11.0×18.0	金子隆
20	吉川 朝衣	収穫	1949年	紙本着色	186.2×177.5	平塚商工会議所
21	木村 一生	Libido 67	1972年	油彩・キャンバス	112.0×162.2	木村一生
22	木村 一生	蚪	1996年	油彩・キャンバス	259.0×194.0	木村一生
23	小菅 徳二	葉N0.5	1971年	油彩・キャンバス	91.5×65.6	川船敬
24	瀬島 好正	スケッチブック(1)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩	21.5×24.8	瀬島好江・桃子
25	瀬島 好正	スケッチブック(2)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
26	瀬島 好正	スケッチブック(3)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
27	瀬島 好正	スケッチブック(4)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
28	瀬島 好正	スケッチブック(5)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
29	瀬島 好正	スケッチブック(6)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
30	瀬島 好正	スケッチブック(7)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
31	瀬島 好正	スケッチブック(8)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
32	瀬島 好正	スケッチブック(9)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
33	瀬島 好正	スケッチブック(10)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
34	瀬島 好正	スケッチブック(11)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
35	瀬島 好正	スケッチブック(12)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
36	瀬島 好正	スケッチブック(13)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
37	瀬島 好正	スケッチブック(14)	1968-85年	紙・鉛筆・水彩		瀬島好江・桃子
38	瀬島 好正	[花]	1934年	油彩・キャンバス	45.5×38.0	瀬島好江・桃子
39	瀬島 好正	[椅子にかけける少女]	1937年	油彩・キャンバス	101.5×52.0	瀬島好江・桃子
40	瀬島 好正	ミシン屋	1952年	油彩・キャンバス	116.3×90.4	瀬島好江・桃子
41	瀬島 好正	[帽子の二人]	不詳	油彩・キャンバス	99.0×71.6	瀬島好江・桃子
42	瀬島 好正	[一人]	不詳	油彩・キャンバス	98.7×71.5	瀬島好江・桃子

作者名	作品名	制作年	技法	寸法(cm)	寄贈者
43	瀬島 好正 [人4人]	不詳	油彩・キャンバス	275.4×182.5	瀬島好江・桃子
44	瀬島 好正 ひろば	1965年	油彩・キャンバス	193.0×129.0	瀬島好江・桃子
45	瀬島 好正 [座る人・横たわる人]	不詳	油彩・キャンバス	275.4×182.5	瀬島好江・桃子
46	瀬島 好正 兄・人	不詳	油彩・キャンバス	145.0×89.5	瀬島好江・桃子
47	瀬島 好正 金魚	不詳	油彩・キャンバス	65.0×49.8	瀬島好江・桃子
48	瀬島 好正 [花]	不詳	油彩・キャンバス	45.5×33.2	瀬島好江・桃子
49	瀬島 好正 [山峡]	不詳	油彩・キャンバス	41.0×52.8	瀬島好江・桃子
50	瀬島 好正 みどり	不詳	油彩・キャンバス	72.4×52.1	瀬島好江・桃子
51	瀬島 好正 黄	1965頃	油彩・キャンバス	160.4×129.4	瀬島好江・桃子
52	瀬島 好正 黄・茶	1973年	油彩・キャンバス	227.0×181.0	瀬島好江・桃子
53	瀬島 好正 茶	1977年	油彩・キャンバス	227.0×182.0	瀬島好江・桃子
54	瀬島 好正 九月	1989年	油彩・キャンバス	227.3×162.0	瀬島好江・桃子
55	瀬島 好正 92かたち A	1992年	油彩・キャンバス	227.3×162.1	瀬島好江・桃子
56	瀬島 好正 '94作品 A	1994年	油彩・キャンバス	162.2×112.1	瀬島好江・桃子
57	瀬島 好正 '94作品 B	1994年	油彩・キャンバス	162.2×112.1	瀬島好江・桃子
58	瀬島 好正 '95作品 B	1995年	油彩・キャンバス	162.2×130.3	瀬島好江・桃子
59	瀬島 好正 茶	不詳	油彩・キャンバス	227.3×162.1	瀬島好江・桃子
60	藤井 白映 山花	1964年	紙本着色	173.0×175.2	関山 満夫
61	二見 利節 モデルと画家	1970年	インク・紙	36.3×25.9	鈴木三喜男
62	二見 利節 モデルと画家	1970年	インク・紙	36.2×25.7	鈴木三喜男
63	二見 利節 エジプトの女	1973年	鉛筆、色鉛筆・紙	26.6×19.2	鈴木三喜男
64	二見 利節 エジプトのピラミッド	1973年	鉛筆・紙	19.2×26.6	鈴木三喜男
65	二見 利節 サントリーニ島	1973年	インク、鉛筆・紙	19.2×26.6	鈴木三喜男
66	二見 利節 イスタンブール	1973年	パステル、鉛筆・紙	19.2×26.6	鈴木三喜男
67	二見 利節 エジプトの家	1973年	インク、鉛筆・紙	19.3×26.7	鈴木三喜男
68	二見 利節 エジプトのピラミッド	1973年	鉛筆・紙	19.3×26.7	鈴木三喜男
69	二見 利節 サントリーニ島	1973年	パステル、色鉛筆・紙	448.3×7.2	鈴木三喜男
70	二見 利節 彼女と僕の事	1971年	エッチング・紙	37.3×27.6	鈴木三喜男
71	二見 利節 彼女と僕の事	1971年	エッチング・紙	37.9×26.9	鈴木三喜男
72	二見 利節 彼女と僕の事	1971年	エッチング・紙	37.3×27.6	鈴木三喜男
73	二見 利節 彼女と僕の事	1971年	エッチング・紙	38.0×26.8	鈴木三喜男
74	二見 利節 朱雀	1971年	エッチング・紙	37.4×27.7	鈴木三喜男
75	二見 利節 朱雀	1971年	エッチング・紙	38.0×26.8	鈴木三喜男
76	二見 利節 朱雀	1971年	エッチング・紙	38.0×26.8	鈴木三喜男
77	二見 利節 玄武	1971年	エッチング・紙	38.0×26.8	鈴木三喜男
78	二見 利節 玄武	1971年	エッチング・紙	37.4×27.8	鈴木三喜男
79	二見 利節 玄武	1971年	エッチング・紙	37.4×27.7	鈴木三喜男
80	二見 利節 ノアの洪水	1965年	油彩・キャンバス	40.8×31.8	鈴木三喜男
81	二見 利節 王様の出陣	1960年	水彩、胡粉・紙(ルーフィング)	58.0×76.2	鈴木三喜男
82	二見 利節 王様の祝宴	1960年	水彩、胡粉・紙(ルーフィング)	58.0×76.2	鈴木三喜男
83	二見 利節 不詳	1960年	水彩・パステル・紙(ルーフィング)	34.0×26.0	鈴木三喜男
84	二見 利節 花のある風景	1970年	パステル・厚紙	36.7×39.6	鈴木三喜男
85	松林 千里 鞆之浦	1910年頃	油彩・キャンバス	65.3×80.2	豊福旦・石野千寿
86	松林 千里 斜陽	1910年頃	油彩・キャンバス	45.0×65.0	豊福旦・石野千寿

作者名	作品名	制作年	技法	寸法(cm)	寄贈者
87 松林 千里	静物 (野菜)	1925年	油彩・キャンバス	33.8×45.8	豊福旦・石野千寿
88 松林 千里	[嵐の後]	1940年	油彩・キャンバス	23.4×33.0	豊福旦・石野千寿
89 松林 千里	自画像	1938年	油彩・板	33.0×23.8	豊福旦・石野千寿
90 松林 千里	[岩]	不詳	油彩・板	24.4×33.0	豊福旦・石野千寿
91 松林 千里	夕陽の歌舞島	不詳	油彩・キャンバス	33.2×45.3	豊福旦・石野千寿
92 松林 千里	半月	不詳	パステル・紙	21.4×28.6	豊福旦・石野千寿
93 松林 千里	[風景]	1923年	パステル・紙	24.1×31.5	豊福旦・石野千寿

貸与

本年度は、他の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対し、展覧会の内容、意義、作品の状態、常設展示の計画などを考慮の上、下記作品を貸与した。

作品名・制作年	貸出先(会場)	展覧会名	展覧会期間
岸田 劉生 <Aの肖像>1913	愛知県美術館	生誕110年 岸田 劉生	2001年2月9日~4月1日
	神奈川県立近代美術館	生誕110年 岸田 劉生	2001年4月7日~5月20日
	笠間日動美術館	生誕110年 岸田 劉生	2001年5月26日~7月8日
横山 大観 <不盡之高嶺>1915	東京国立博物館	横山大観-その心と芸術-	2002年2月19日~3月24日
工藤 甲人 <相>1984	式年遷宮記念神宮美術館	春-歌会始御題に寄せて-	2002年3月6日~4月7日



小関利雄 「蛙の5月祭」



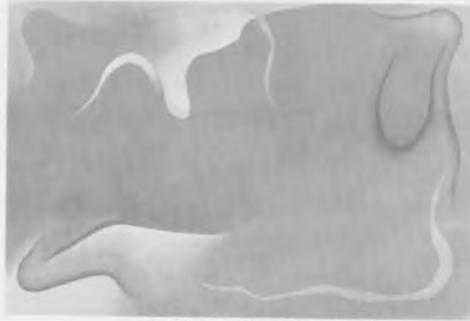
小関利雄 「丘の街スペイン」



金子保「北大ポプラ並木」



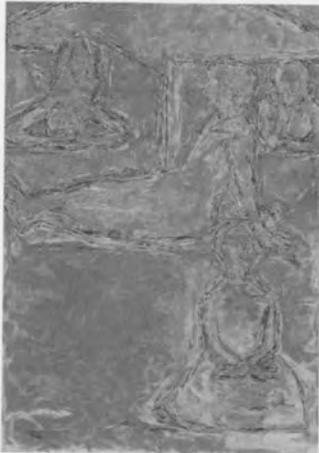
金子保「芍薬の花」



木村一生 「Libido 67」



小菅徳二「葉No5」



瀬島好正「人4人」



二見利節「大様の祝宴」



松林千里「嵐の後」

統計

平成13年度 観覧者数

月	企画展	常設展	観覧者数計
4	324	746	1,070
5	2,534	1,824	4,358
6	1,032	1,266	2,298
7	439	904	1,343
8	2,972	0	2,972
9	2,011	0	2,011
10	1,102	1,081	2,183
11	3,936	2,684	6,620
12	744	834	1,578
1	0	590	590
2	6,776	4,063	10,839
3	11,307	8,860	20,167
合計	33,177	22,852	56,029
前年度末	537,020	467,556	1,004,576
開館以来	570,197	490,408	1,060,605

平成13年度 施設利用状況 (展覧会・会議室・ホール)

月	展覧会開催日数	会議等	ミュージアムホール
		件数	貸出日数
4	25	10	6
5	27	11	0
6	25	15	5
7	26	10	10
8	27	10	0
9	26	6	0
10	25	10	4
11	26	12	0
12	23	5	7
1	21	6	1
2	24	12	1
3	27	11	4
合計	302	118	※38

平成13年度 市民アートギャラリー利用状況

月	展覧会 開催日数	利 用 団体数	入場者数 (人)	展 覧 会 名
4	20	5	3,375	銀杏カルチャー教室発表会、ねんどの花 ルレーブ・フルール展、高原幸一展、創作和紙人形展、第16回湘南市民美術展
5	22	6	3,268	湘美展、陶芸サロン遊熙会作品展、H. Fフラワーボトル教室発表会、草月流三人展 調和と遊び心、青木由香・永井悦子たのしい展、アンファン・ペリクラス展
6	16	2	4,235	グループ針布るパッチワーク展、第24回平塚市展
7	19	5	3,170	中国・長安流著名画家一郭先生画展、柳彩会絵画展、第6回(公募) F6号アマチュア絵画作品展、此君会水墨画展、第19回神奈川県筆友書道連盟公募展
8	27	7	3,618	2001年水美日彩展、すさ美会展、猪野章義展、大門書悠会展、平塚書道協会展、こがねむし絵画展、日本レミコ押し花学院押し花作品展
9	23	7	4,964	版画連展、'01第37回 J R P 湘南支部写真展、湘南書道同好会展、獅子座の会陶芸展、湘南工房陶芸教室作品展、透彩会展、紙の上の表現展
10	24	6	5,191	神奈川県民書連役員展、MOA美術館児童作品展平塚会場、夢工房展、美術家協会50周年記念展、第49回平塚市文化祭(5団体展示)、第49回平塚市文化祭(公募展)
11	21	5	9,419	幼少図工作品展、中学校絵画展、平塚写真連盟30周年記念展、坪井賀子外遊絵画・写真・土産物展、ポーセリンアート グループF
12	18	4	2,277	旭彩会水彩画展、第11回湘南窯友の会陶芸展、第13回日本画なでしこ会展、波の子造形教室作品展
1	16	6	4,190	オリンパスカメラクラブ湘南支部作品展、第10回ぐう・ちょき・ばあ展、平塚市保育園児絵画展、わっしょいの会展、第11回心創展、2002年和田造形絵画作品展
2	21	5	4,291	第28回有雅陶展、なかよし作品展、ひまわりの会、第34回平塚市教員美術展(ひびきの会)、第3回“アート21”油彩画展
3	19	5	5,861	樟の会作品展(水墨画)、第3回陶悠会作品展、キルトスタジオ朋の部屋、第2回オクトアトリエ講師特別展、第8回湘南芸術家協会展
計	246	63	53,859	

平成13年度 ミュージアムホール利用状況

月	利用 日数	利用目的		利 用 団体数	入場者数 (人)	利用目的
		土・日	その他			
4	6	4	2	5	365	音楽会4件、市事業2件
5	0	0	0	0	0	ヴンダーリッヒ展で使用
6	5	1	4	5	287	音楽会1件、市事業4件
7	10	6	4	9	615	音楽会7件、市事業3件
8	0	0	0	0	0	湘南の美術・光展で使用
9	0	0	0	0	0	湘南の美術・光展で使用
10	4	2	2	3	220	音楽会1件、市事業3件
11	0	0	0	0	0	近世ヨーロッパ絵画の軌跡展で使用
12	7	7	0	7	530	音楽会で使用
1	1	1	0	1	110	音楽会で使用
2	0	0	0	0	0	安田靉彦展で使用
3	4	2	2	4	473	音楽会2件、市事業2件
計	37	23	14	34	2,600	

平成13年度までの 市民アートギャラリー入場者の推移

平成 2 年度	(1) 件	3,265 人
平成 3 年度	41 件	61,152 人
平成 4 年度	50 件	71,107 人
平成 5 年度	52 件	60,426 人
平成 6 年度	56 件	61,948 人
平成 7 年度	61 件	62,632 人
平成 8 年度	62 件	61,412 人
平成 9 年度	58 件	61,301 人
平成 10 年度	59 件	57,369 人
平成 11 年度	63 件	57,487 人
平成 12 年度	62 件	58,643 人
平成 13 年度	63 件	53,859 人

総 計 628 件 670,601 人



第13回银杏カルチャー教室発表



グループ針張布 パッチワーク展



第24回平塚市展



第19回神奈川県筆友書道連盟公募展



第5回夢工房 ステンドグラス



第11回MOA美術館平塚児童作品展



第3回陶悠会作品展



平塚市立幼・小園作品展



第4回オリンパスカメラクラブ湘南支部作品展

沿革

1984年	5月	美術館建設研究委員会（庁内）
1985年	7月	平塚市美術館基本構想策定委員会設置（1986年まで8回開催）
1986年	3月	「平塚市美術館基本構想策定」答申
1986年	4月	美術館建設基本計画策定連絡協議会設置（庁内）
1986年	9月	「平塚市美術館建設基本計画」策定
1988年	4月	美術館建設準備室設置
1989年	6月	美術館建設起工
1990年	10月	美術館本体工事竣工
1990年	12月	平塚市美術館条例公布
1991年	3月	平塚市美術館開館
1996年	10月	平塚市美術館開館5周年記念展 「ミレーとバルビゾン派の画家たち」
2000年	7月	第50回湘南平塚七夕まつり歴史回顧展 平塚市神奈川大学交流提携10周年記念
	10月	「開港期の神奈川・世界が見た日本」展
2001年	7月	平塚市美術館 開館10周年記念 「湘南の美術・光－美術館建設運動から開館10周年まで－」展
2002年	2月	開館10周年記念/日本画の巨匠 「安田靉彦展－歴史画の魅力展」

組織・運営

(2001年3月31日現在)



協議会の開催

平成13年2月16日(金) (美術館研修室)

1. 役員選出について
2. 美術館事業について

平成13年3月14日(水) (美術館研修室)

1. 美術館事業について
2. 美術館友の会・協力会について

平成13年度（2001.4－2002.3）

平塚市美術館年報

編集・発行 平塚市美術館

〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3

Tel.0463（35）2111

e-mail:art-muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp

印刷 （株）グラフ

平成14年3月31日発行